

2022年7月9日の見学会ブログ

国際文化学科 1年 K.H.



◇森林見学

ここでは、木がどのように植えられ、育てられたのかを知ることができた。特に驚いたのは、60ヘクタール(東京ドーム12個分の規模)の土地をたった一人で管理しているということだ。さらにその管理は、季節によって異なり、春は植林、夏は草刈り、寒い時期は伐採と大きく3つの工程に分かれていた。また、木にはそれぞれ数字(木の周囲)が書かれていて、この時点でこの木がどこに使えるのかを考えているそう。この見学から、現時点のことだけを考えるのではなく、先々のことも視野に入れる必要があると学んだ。

◇丸太市場見学

ここでは、森林で伐採された木が、木の種類や状態によって仕分けしたり、値段をつけて売ったりするらしい。木の仕分けは、人がボタン操作で行い、全部で、36項目に分けられた。実際に仕分けの作業を見てみて、違いが分かりにくく、慣れるまで難しい作業であるのだと分かった。また、太くて大きい丸太のみ、売り方がオークション方式であるのが、とても面白いと感じた。





◇木材製材所

ここでは、丸太市場で購入した木を、利用目的に合わせて製材していた。製材は、注文を受けてから行い、どこに利用するか、また、お客様が何を求めているのかを考えてながら、注文者とコミュニケーションをすることが必要になってくる。この見学会で、木材に携わるうえでは、視野を広げ、相手の気持ちを汲み取ることが大切なのだと学んだ。そして、自分がなくなったあとも、自分が育てた木は生き続け、誰かのためになっていると思うと、とてもやりがいのある職業だと感じた。今回学んだことを生かしてイベントを開催したい。